

令和5年6月当時、猪名川町立中学校に在籍する女子生徒(以下「被害生徒」といいます。)に対して下記のようないじめ被害が生じました(なお、これらのいじめは猪名川町いじめ問題対策審議会において認定されたいじめです。)

(1) 事実と異なる噂を流されたことについて

被害生徒は、全くそのような事実がないにもかかわらず、複数の男子生徒に並行して恋愛感情を抱いているとか、複数人に同時に告白をする予定であるという噂を広められました。

(2) 書いていない手紙を被害生徒からのものとして特定の3年生に渡されたことについて

令和5年5月末頃から6月下旬頃にかけて被害生徒の名前を騙った3年生男子宛の手紙が約30通近くに渡り捏造され、靴箱に入れられるなどにより、3年生男子の手に渡りました。

(3) 公開告白について

加害生徒によって被害生徒が複数の先輩に同時に告白をするという噂を広められた上で、令和5年6月28日の昼休みに、これを聞きつけて集まってきた100名近くの生徒の前で、被害生徒からとされる告白文を加害生徒から4名の先輩に対し同時に手渡されるという「公開告白」が行われました。被害生徒は公開告白が自分を貶める為に

仕組まれたことを知り、他人の目が怖くなり、その後1日も登校できなくなりました。

以下では、いじめ及び被害生徒に対する遺族の思いを記載します。

【遺族の思い】

令和6年10月にあの子が自ら命を絶ちました。

僅か14年の生涯でした。

中学校への入学当初より加害生徒によるいじめにあい悩み苦しみ、絶望と失意の中での自死でした。

私達遺族は、毎日毎日、自分達を責め続けました。

どうして独りで逝かせてしまったのか。

どうして助けてあげることができなかったのか。

私達遺族が悔やみ続ける中、加害生徒から発信されていたあの子に対する事実無根の人格を貶める誹謗中傷を信じる生徒が、今尚、多数存在することを知りました。

死してなお、あの子の尊厳は貶められ続けています。

加害生徒により歪められたあの子の人物像が、皆の中に残り続けることは、遺族として耐えられません。あの子が亡くなってから、幼い頃からあの子を知り習い事の先生方から話を聞くことができました。あの子は自分のことより周りを気遣い、年下の子や困っている子を助ける子、決して人を傷つける子ではなかった、その子がどうして命を絶たなければならなかったのかとおっしゃっておられました。先生方の思いは、遺族と同じでした。

あの子は、同級生と同じように高校に進学して大学に行くと、未来が待っていたはずでした。将来の夢も持っていました。しかし、入学後僅か 2 ヶ月で、加害生徒によってあの子の人生は変えられてしまいました。

あの子が頼んでもいないのに、加害生徒が勝手にあの子から頼まれたと周囲に吹聴して、100人前後の生徒の前で公開告白を行うというでっちあげがなされた後、あの子は中学校には1日も登校できなくなりました。このでっちあげられた公開告白を、あの子が行ったことだと信じている多数の生徒がいました。

調査報告書で真実を確かめてください。あの子が行ったことではなく、加害生徒がでっちあげたものに外なりません。

加害生徒と会う前のあの子を返して欲しい。

あの子をこの手にもう一度抱きしめたい。

あの子に対する誹謗中傷を信じる生徒がいなくなることを願っています。

このような辛い思いをする遺族が二度と出ないことを願います。

遺族一同